

# 令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月9日(火)

会場:作木山村開発センター

参加者数:50人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>旧三江線鉄道資産の利活用では、NPO法人江の川鐵道と、トロッコ運行の実証実験をしている。令和3年度以降、邑南町がJRと鉄橋の使用貸借契約を結び、NPO法人江の川鐵道が実証実験を行っている。今年4月に、市に対して、口羽、伊賀和志、宇都井間の実証実験に関する要望書を出したが、協力できない旨の回答であった。その理由として、三次市旧三江線鉄道資産検討委員会の提言には伊賀和志区間に言及されていないということである。この提言は、鉄道資産の無償譲渡を前提として検討されているが、提言後、JRは、使用貸借で鉄道資産を使うことも可能という方針を出され、トンネル等の構造物の安全対策はJRが責任を負うということである。JRとどのように話をしているのか地元説明を行い、意見を聞いてほしい。</p> <p>2点目として、口羽駅と宇都井駅間のトロッコ運行の魅力を向上させるには、伊賀和志駅は邑南町で借用されるのが望ましいという理由であった。伊賀和志と宇都井間の距離は4.8kmあり、その大部分が三次市の区域である。この区間にある、さくぎ郷土芸能伝承館や江の川等の景観、ブッポウソウなどの観光資源をトロッコから観ることができる。三次市観光戦略には、ストーリー性を持った広域周遊の観光商品を開発するという方向性が示された。庄原市や邑南町などの隣接地域と共通性やテーマ性の高いコンテンツで連携することや、三次市、邑南町、JRの3者における、鉄道資産を活用した観光商品づくりが観光戦略のめざすところではないか。トロッコ列車の実証実験をして、経済波及効果や問題点を検証していただき、商品づくりを一緒に考えてほしい。旧三江線鉄道資産を活用した観光振興に取り組みたいという私たちの挑戦に、改めてご理解をいただき、ご協力をお願いする。</p>	<p>・地域で精力的に取り組まれているトロッコ列車の運行については、昨年度、国土交通省の手づくり郷土賞を受賞された。地域振興のために、本市として協力を惜みず、積極的に広報等の協力をさせていただくとお伝えしている。旧三江線鉄道資産検討委員会において、委員の総意としてまとめられた提言書は、大変重みを持つものとして受けとめている。提言書の中には、「地域活性化、観光振興に資するもので、かつ、周辺のまちづくりとの連携の中で、経済波及効果や持続性が見込まれるものについては、利活用に係る具体的な検討を行う」とあり、まちづくりの連携という観点から、利活用については、作木地域の方の総意としての取組が欠かせない。また、検討委員会では、旧伊賀和志駅の活用について言及されておらず、経済波及効果や持続可能性等も含めて、慎重に検討する必要がある。JR西日本からは、使用貸借ができるとの提案をいただいております。本市部分である旧伊賀和志駅の周辺は、邑南町で借用されてもよいと伺っている。邑南町では、JR西日本から、宇都井と口羽駅周辺の資産について譲渡を受け、鉄道公園として活用されている。トロッコ運行の魅力向上のために、旧伊賀和志駅の活用を図られるのであれば、本市部分であっても、邑南町で一体的に実施をされた方が望ましく、邑南町とともに活用される場合は、協力は惜しまないと回答させていただいている。</p>	
<p>作木地区にはトンネルが多いが、便坂トンネルは暗い。トンネル上の山林に熊や猪が出るので、県に対して草刈りを要望してほしい。</p>	<p>・作木地区内のトンネルを確認し、広島県が管理しているトンネルについては、今後、責任を持って協議していく。 ・市管理のトンネル照明は、補修や改良の方法などについて協議している。</p>	
<p>緊急非常用装置が無料となる場合や、玄関に階段をつける際に安くできる場合もある。作木地区の高齢者対策を進めてほしい。</p>	<p>・作木地区は、高齢化率は高いが、75歳以上を高齢者と考えておられ、自分たちが将来の地域づくりをしているという強い意気込みを感じる。また、自治連合会を一般社団化されている。このような地域の皆さんの誇りや工夫が、地域づくりにとって重要である。皆さんの思いが地域振興につながるように支援していきたい。 ・高齢者へのサービスは、制度が複雑であり、伝えきれていないものもある。作木で初めてとなる認知症カフェをご自宅で開催されており、サポートしていきたい。引き続き、作木地区に応じたサービスの提供のあり方について意見をいただきたい。</p>	

# 令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月9日(火)

会場:作木山村開発センター

参加者数:50人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次市には良い条例として、「まち・ゆめ基本条例」があるので、市民や職員に周知し、市民がいきいき、そしてワクワクできるように、格好よく市政運営をしてほしい。</p>	<p>まち・ゆめ基本条例は、本市の元気づくりや地域振興をしていく上で、大切な条例であり、市民参加、議会および行政の役割などを明文化している。市民の皆さんと条例の共有化に努めていきたい。「いきいき」「ワクワク」「格好よく」という言葉は、素晴らしい言葉だと聞かせていただいた。今後も、持続可能な地域に向けた取組を、皆さんと一緒に進めていきたい。</p>	
<p>移住当時と比べて、米作りが減ってきており、作木地区として、どうするのか話をする必要がある。米価が下がらないようにするにはどうすればよいのか考えてほしい。</p>	<p>人口減少や高齢化、耕作放棄地の増加という状況の中において、作木地区の皆さんは色々なことに挑戦され、新たな価値を生み出していこうという気概を感じている。一緒に、価値を創造していくように取り組んでいきたい。</p>	
<p>猪や鹿などの駆除にも力を入れて、山間部で必要なことを進めてほしい。</p>	<p>鳥獣被害については、作木地区に限らず報告を受けており、様々な対策を実施・検証しながら、効果的な対策を見出していきたい。ICTを活用した鳥獣駆除の取組や、猪や鹿の生態を調査している。鳥根県美郷町では、バッファゾーンを設けることで、鳥獣が人里に入らなくなったという調査結果もある。このような事例を参考にしながら、鳥獣被害対策について、皆さんと一緒に進んで、取り組んでいきたい。</p>	
<p>身近な事業として、具体的には何を推進されるのか。また、周辺地域に対する支援について、どう考えているのか。</p>	<p>地域の安心・安全にとって欠かせない病院について、現在、三次中央病院の建替構想を策定している。三次中央病院は、鳥根県の一部から患者が来られるなど、広域的な役割を果たすとともに、防災拠点病院にも指定されている。今後、過疎地域で重要な役割を果たすことを踏まえて、広いエリアの医療を補完できるような医療体制を構築していくため、広島県や国と意見を擦り合わせながら、病院構想を立てていきたい。また、老朽化している小学校や保育所の耐震化などの工事をしてきた。今後も、リニューアルや改修などの長寿命化事業を進めていく。さらに、長期財政運営計画に基づき、粟屋地区にある最終処分場に替わる処分場の建設計画など、日常生活に身近な事業を実施していく。そして、公共施設の維持管理費を抑えるため、使用されていない公共施設の削減、公共施設の集約などをめざした管理計画を立てた。各施設の役割や利用率などを考慮し、公共施設の合理化に向けた取組を継続していきたい。支出の削減だけでなく、稼ぐ力をつけることにも力を入れており、実証段階である薬用作物の産地化、観光戦略に基づく取組を進めている。自然や体験などの地域資源に価値をつけることや、色々な観光ルートと結びつけることにより、本市を含む備北地域での滞在時間および観光消費額の増加につながっていく。</p>	

# 令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月9日(火)

会場:作木山村開発センター

参加者数:50人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>地域における草刈りについて、高齢化が進み負担が大きい。草刈りをしないと荒れ放題となり、若い方も住まなくなる。行政から手を指し伸ばさないと、過疎化が進行する。水田には治水効果もある一方で、草刈りの負担が大きいので、行政による支援について検討してほしい。</p>	<p>市内には、約3,600路線、総延長1,800kmの市道がある。限られた財源の中で、市道の草刈りをどのように維持していくか、知恵と工夫が必要となる。株式会社ジモティーと本市による草刈りに関する取組は、知恵と工夫の一つの事例であり、地域に何らかの貢献をしたいという潜在的な人材を掘り起こしていくものである。まだ課題はあるが、この作木地区でも、色々な分野において応用ができるものと考えている。今後も、高齢化や人口減少による労働力不足を、知恵と工夫で補うための取組に挑戦していきたい。</p>	<p>【ジモティーとは】ジモティーは、株式会社ジモティーが運営する地域の情報サイト。カテゴリー別に、利用者の目的に応じて分類された情報が掲載され、利用者は無料で情報交換をすることが可能。今回の三次市における実証事業は、草刈りの労働力を必要とする地域住民と作業を手伝える方のマッチングを促進する実証事業の実施として、全国初の取組である。</p>
<p>・藤山浩先生(一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長)によると、人口を安定化させるためには、毎年3.1組の定住増が必要であると言われているが、これは難しい課題である。今年、新聞社主催の作文コンクールで、作木小学校児童の作品「作木はええとこなんよ」が選ばれた。また、ラジオ番組では、「作木に引っ越したんよ」などの内容で作木地区のいいところを紹介する、作木小学校児童による朗読放送があった。作木地区の子どもたちの活躍に、地域では力をもらった。これからも、子どもたちのために活動していきたい。</p> <p>・地元の方と川に入る場所の草を刈るなどの準備をして、水中生物観察会を実施したところ、子どもたちには喜んでもらった。今まで、地域の有志で草刈りをしてきたが、高齢化や草の勢いに負けている状況である。子どもたちに、普段から遊べる場所を作ってあげることは、非常に大切であると感じている。ボランティアだけでやることは難しい面があることから、予算の確保が必要である。また、ボランティアの人にも、頑張っていく思いを持っていただくようにしたい。子どもたちに対して、ふるさと学習を行い、作木地区のいいところを見てもらうためには、子どもに関する予算を確保することが重要である。子どもたちが作木地区に住み続けることや、出ていっても戻ってきてくれることにつながるのではないかと。</p>	<p>・学力をつけることと同じように、故郷を離れても、また帰ってきたという思いを持つ子どもを育てていくことが大切である。子どもたちが作木地区の人や自然環境などに触れる機会を増やすことで、故郷を思い出すことにつながっていく。学校では、郊外へ出て学習をする機会を設けているが、地域の方々にお世話になっている。子どもに関する必要な予算は確保している。</p> <p>・地域で子育てをするため、三次学区ではコミュニティスクールを先行的にしているが、作木学区での立ち上げに向けて、校長先生や自治連合会と一緒に、内容を練り始めたところである。</p> <p>集落支援員には、日頃からご尽力いただいております。昨年、子育て世代の方が1ターンで来ていただき、学校や子どもたちに活力が出た。今年も、空き家バンクへ2軒の登録があり、移住相談をいただいた。これらのことは、地域の皆さんの情報と、作木地区のふるさとサポーターの皆さんの協力などの成果であり、子育てする場所として作木地区を選んでもらい、地域や学校がともに活性化できるような環境を作っていきたい。作木地区では、空き家バンクなどの取組によって、人口減少を抑制できている。今後も、住民自治組織や集落支援員、地域の皆さんと一緒に、一生懸命考えていきたい。</p>	
<p>三次ケーブルテレビが維持できているのは、作木地区の加入率が高いことも理由の一つである。自分の地域に自信をもっている。</p>	<p>作木・君田・布野などの周辺地域では、ケーブルテレビの加入率が非常に高い。地域の大切なインフラを支えることができるように、引き続き、取り組んでいく。</p>	